

西諸県農業改良普及センター
(西諸県農林振興局)

分娩間隔の短縮を目指して

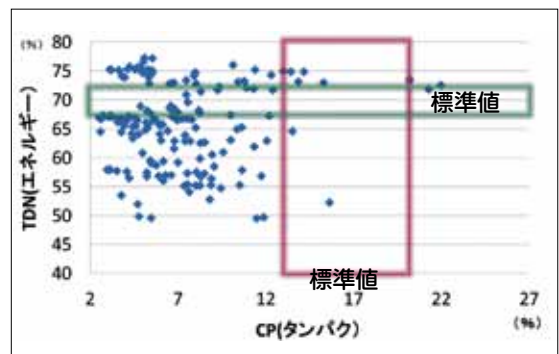
～ 肉用牛繁殖経営における
繁殖性向上プロジェクトの取組 ～

1 活動のねらい

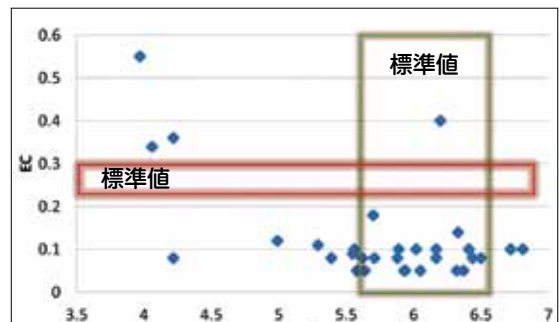
(1) 平成26年の西諸県地域における肉用繁殖母牛（黒毛和種）の飼養頭数は約17,700頭、子牛出荷頭数は約15,000頭となっており、いずれも減少傾向にあります。また、繁殖成績については、分娩間隔が420.6日と県平均に比べても長い状況にあります。

(2) 過去に分析した自給飼料の品質を調査したところ、標準値に達しているものが少なく、繁殖成績低迷の一因が自給飼料の品質のばらつきと母牛の栄養バランスの悪化にあるのではないかと考えられました。また、過去の土壌の分析結果を調査したところ、pHが低い圃場が多くみられ、肥培管理の不徹底が懸念されました。

今回、農家から「繁殖成績を改善したい」という声があり問題意識が高まっている状況であるため、関係機関と連携しながら自給飼料の品質向上と母牛の栄養状態を改善することにより、分娩間隔を短縮する取組を支援することとしました。



イタリアンライグラス分析結果 (n=162)



土壌分析結果 (n=31)

2 活動の経過又は普及の関わり

(1) モデル農家の設置

各市町の中核的繁殖農家からモデル農家10戸を選定し、飼料分析および飼料給与状況の調査を行ったところ、6戸において栄養の過不足が確認されました。特に、授乳期のタンパク不足が顕著でした。

(2) 血液プロファイルテストの実施

モデル農家のうち2戸において、各ステージ毎（維持期、分娩末期、授乳期）に5頭ずつ、血液性状を調べた結果、両農場とも繁殖性と関連の高いタンパク質代謝に異常が確認されました。



飼料聞き取りの様子

(3) 改善指導（繁殖検診）および研修会開催

飼料給与指導を行うとともに、NOSA I 獣医師による超音波を用いた早期妊娠鑑定を実施し（繁殖検診）、空胎期間の短縮を図りました。

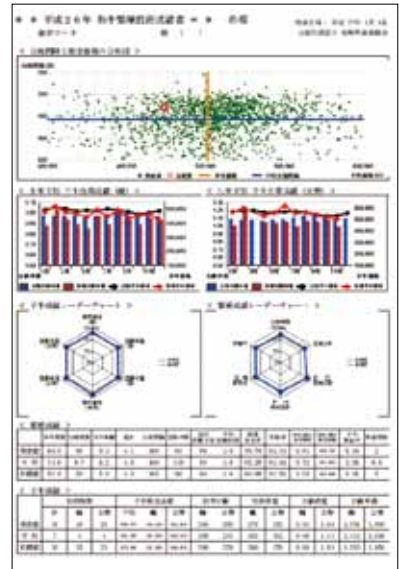
また、各地域で全農家を対象とした研修会を開催し、土づくり、エサづくりのための研修会を開催し、良質な飼料生産に努めました。



繁殖検診の様子

(4) 産地分析シートを活用した課題発見

農家の産地分析シート（地域内における分娩間隔および子牛販売価格の順位や子牛の出荷成績、母牛の繁殖成績等をグラフ化したもの）を活用し、成績の分析を行うことで農家自身に課題を発見してもらい、今後の改善方向の検討を行いました。



産地分析シート（例）

3 活動の成果

(1) モデル農家10戸に指導を行った結果、一部の農家で繁殖成績の改善が確認されました。初回授精日数短縮農家6戸、発情発見率向上農家5戸となり、分娩間隔の短縮につながることを期待されました。

(2) 研修会を7ヶ所で開催したところ、約500名の出席がありました。その際に実施した意識調査のアンケートでは、無回答を除くとほとんどの農家が「今後、土壌改良を試みる」と回答し、意識の向上がみられました。



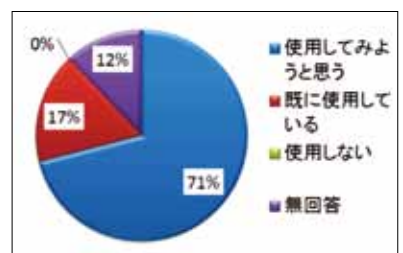
研修会の様子

4 今後の方向

今後も関係機関と連携しながら、データを活用した普及活動を展開し、今回の手法で地域に波及していき、地域全体の分娩間隔の短縮を図れるよう努めたいと思います。

5 対象集団又は対象農家の声

研修会開催後は、「収量がとれていないため、飼料の品質が低下していることは意識していなかった」といった意見が聞かれ、問題意識を与えることができました。また、「自給飼料の品質が悪いことを初めて知り、土作りの大切さを実感しました。飼料価格を抑えるためには、良質な粗飼料作りが重要だと感じました。」との意見が聞かれました。



アンケート結果